

新潟県

公民館月報

昭和61年6月号

発行所 新潟県公民館連合会

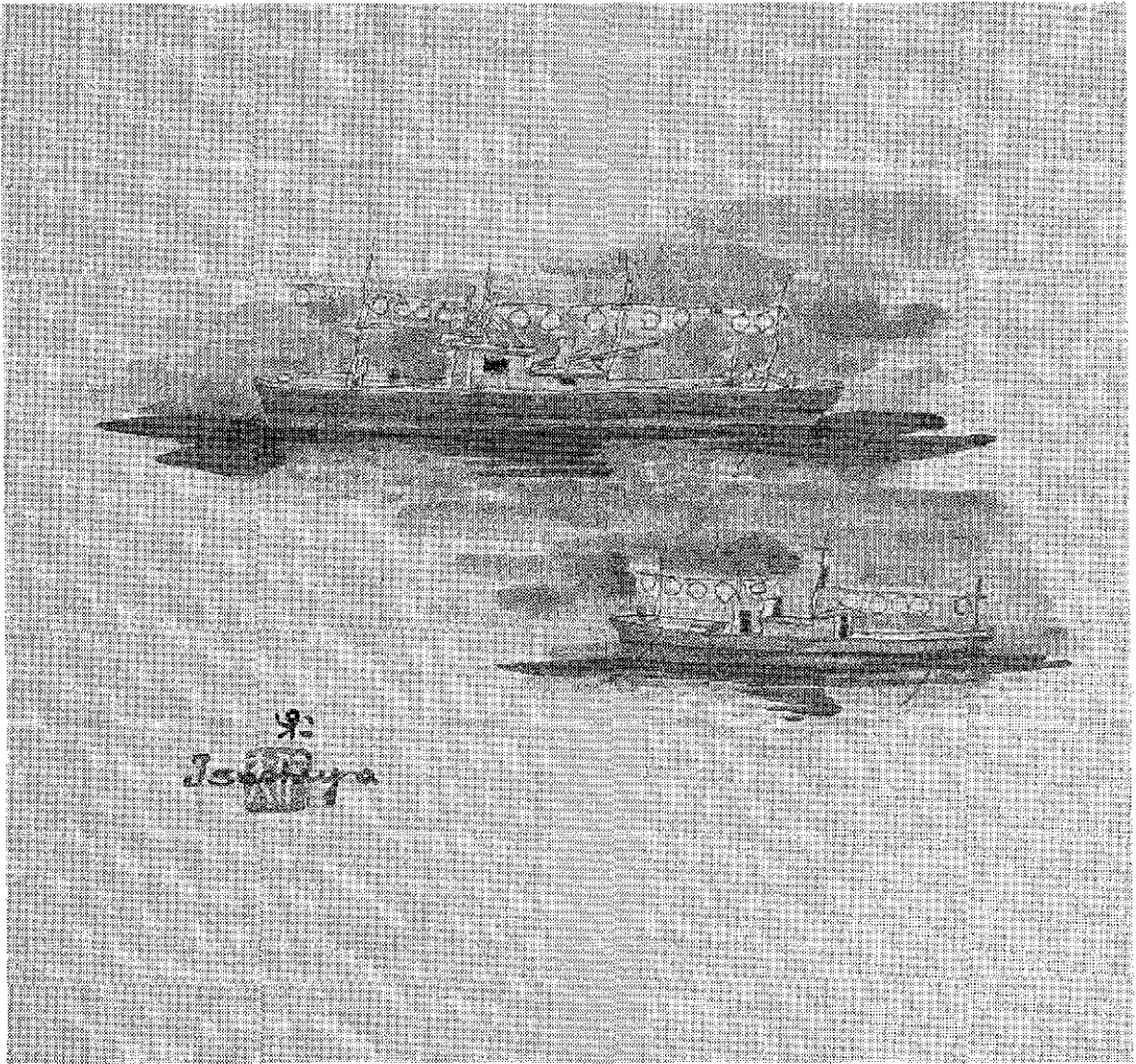
【新潟市川端町2-9・農林業会館内】

【電話・新潟 (0252) 24-6073】(振替新潟0-4049)

発行人 会長 志水 亘

編集人 事務局長 上村 隆二郎

【定価1部120円 千共・年価1,440円】



早春の夜と夏の夜の漁火

漁師の近代的漁法は相川の風物詩となつてゐる。時には小雪舞う早春の夜、海岸から二〇〇メートル位の沖合に、ヤリイカの習性を狂わせる数十隻の漁船の集魚燈は夜空を真赤に染める。この光景は神秘的な雰囲気さえ醸し出す。

夏の夜ともなれば、イカ釣漁船による集魚燈はヤリイカの比ではない。規模は大きくなり、夜空は雲焼けと交り、夜空は雲焼けと交り、教杆に及び漁村集落が騒々楼のように浮びあがるさまは、まことに幻想的である。ヤリイカ・スルメイカともに集魚燈の魔力に群泳浮上するのである。ヤリイカは多い時で、一隻当り二百〜四百箱、イカも多い時で三百〜六百箱が漁獲される。

絵、相川町教育長
(サンパウロ国立大学
客員教授)

土屋 仁夫
文、相川町公民館長
岩崎 照

新潟県公民館月報は、
今月号で通巻四〇〇号
になりました。

県公連の組織固まる

副会長に 藤本氏(上越)

佐野氏(中越) 細野氏(下越)

さる四月二十五日の評議員会において、会長の選出をみたが、副会長・理事・監事の選任については、上・中・下越地区の公民館連絡協議会の評議員会まで保留となっていた。このほどそれぞれの地区公連の会議が終り、つぎのとおり、選任または委嘱された。

県公民館連合会役員一覧

(但し評議員は既報につき略)

会長	長	志	水	巨	新潟市中央公民館長
副会長	細	野	野	一	新発田市公民館長
副副会長	藤	本	新	二	長岡市中央公民館長
理事	石	塚	昭	雄	上越市公民館長
理事	砂	原	近	進	五泉市公民館長
理事	岩	崎	照	衛	聖籠町公民館長
理事	山	田	欽	二	相川町公民館長
理事	石	沢	邦	治	加茂市公民館長
理事	松	岡	昭	猛	川西町公民館長
理事	町	井	昭	雄	糸魚川市中央公民館長
監事	高	橋	宏	夫	新井市公民館長
監事	高	橋	康	夫	燕市中央公民館長
監事	西	山	英	一	与板町公民館長
					牧村公民館長

新潟県生涯教育推進会議

古くて新しい あるべき論

報告書を読んで

生涯教育推進会議では生涯教育推進の「基本構想」について「公民館の役割」と精力的に調査・研究をすすめて、ここに報告書をまとめた。公民館関係者の一人として厚く謝意を表す。

だが、反面で少々迫力不足を感じる。情報収集は点から線へ、線が専門的であると評価しているのではない。それは、県と市から面へとネットを広げていくも町村とがのよう補完しあうべきなのかにあてはまらない。公民館では、県立図書館と市町村図書館との間で役割を分担し体的に述べよう。

報告書では、「生涯教育」の理念を明示し、その基本理念に基づいた推進体制の確立と公民館の役割やあるべき姿を示している。示された公民館の「あるべき姿」は決して目新しいものではない。古くて新しい公民館の指針である。それだけに謙虚に受けとめ、この報告書を常にわれわれの座右に置き、今後の体制の整備や活動の充実化についてのより新にしていきたいものだ。

問題の第一「情報センター」としてネットワークづくりに力を入れている。公民館の場合、県立図書館と連携する施設・機関は何にもない。この点で、現在の県公連に求められているのは、情報の収集をするには限界がある。問題の第二、公民館の主事の業務が専門的であると評価しているのはうれしい。そのための資質向上も指摘のとおりである。それだけに研修のあり方が重要になると思う。基本的な事項から高度な事項に至る内容を整理し、市町村独自で、団体で、県や国で、研修の内容に応じた役割分担目標化の必要はないだろうか。

これらの課題解決のためには、同機能をそなえた県立の施設、つまり社会教育センター(会館)の設置が不可欠と思う。ともあれ、生涯教育の推進はいま時代の要請である。よって、各々の公民館の体制整備や事業の充実化について、この報告書に参考料として大いに活用したいものである。(上村)

編集委員一覧

伊田	千代子	新潟市鳥居野地区公民館主事(社教主事)
手島	勇平	聖籠町公民館主事(社教主事)
千原	昭夫	柿崎市中央公民館長
小川	庚	見附市中央公民館長
山川	剛	上越市公民館庶務係長
有坂	豊裕	県社会教育主事

関東甲信越静公民館研究集会案内

9月4、5日に千葉県鴨川市で開催

第27回関東甲信越静公民館研究集会が来る9月4日5日の両日にわたり、千葉県鴨川市で開催される。

テーマは『意欲的に発展させよう公民館活動を』として、公民館関係者の自覚を高め連帯を強めることをねらっている。

本県から、北魚小出町公民館長の柳沢薫氏が第2分科会の発表者として日ごろの実践の成果を発表することになっている。第2分科会の主題は「公民館の管理運営<町村>」で、討議内容には、住民サービスの向上や公民館利用・使用料・開閉時間等が予想されている。

この研究集会の特色は、参加者全員が同一ホテルに宿泊

し一堂に会して、交流を図り、仲間意識を高め、情報交換等をすすめるところにある。

なお、次の諸氏が本研究集会第2分科会の推進役として参加される。活躍を期待したい。

運営委員	南蒲原郡栄町	楠利雄氏
発表者	北魚沼郡小山市	柳沢薫氏
助言者	中社会教育主事	佐藤威美氏
司会者	三島郡与板町	高橋康夫氏

めの公民館の役割

—新潟県生涯教育推進会議—

◇生涯教育推進に果たす公民館の役割

1. 連携・協力を中心とした公民館の運営

学習を実践する地域住民にとっては、教育機能を総合化する役割を公民館に求め、公民館がその役割を果たすためには諸機関、諸施設との連携が必要。よって公民館には関係機関や施設、民間、団体等との連絡調整の窓口となる機能が求められる。特にこの役割は中央館に望まれる。

2. 公民館本来の社会教育事業の推進

公民館本来の機能つまり①地域住民を対象とした総合的

な学習提供機関、②生涯学習への誘発と学習情報を提供する情報提供機関、③憩いの場、集いの場としての地域連帯感を醸成するための施設、の一層の充実により、次の役割を果たすことが望まれる。

- (1) 生涯各時期の学習機会の提供
- (2) 学習啓発と学習情報の提供
- (3) 団体、グループ・サークル等への援助
- (4) 個人学習への援助

◇公民館のあるべき姿

ここでは、都市的地域の公民館のあるべき姿のみをみる。

1. 学習活動の中核施設としての公民館

都市的地域では、公民館のほかに、図書館、博物館等の社会教育の専門施設や、公会堂、文化会館等の集会施設、また民間施設や団体施設等多数ある。これらの機関・団体の施設との連携・協力の体制を作ることが大切。そして、それらの間の連携・協力に基づいた学習機会や総合的な学習情報の収集や提供、またこれらの資料を基にした相談事業を実施するなど、教育を行う施設の調整作用としての役割を果たすことが望まれる。

2. 学習サービスセンターとしての公民館

(1) 学習機会の提供と学習援助

ア 生涯各時期の学習計画の作成＝市町村の総合教育計画に基づき、事業の緊急性、適時性、地域性等を考慮に入れながら選択し、多様な方法や形態を駆使して効果的な事業を展開する。

イ 必要課題を基に、地域に根ざした学習機会の提供＝個人と地域を結びつけ、地域の連帯感を醸成するような学習活動が重要。そのためには、地域の理解を深める学習や地域課題を基盤とした社会参加活動、地域活動、ボランティア活動など地域に根ざした学習の機会の提供が必要である。

ウ 団体、グループ・サークル等の援助＝団体、グループ・サークル等は、同じ目的意識をもつ者の活動であり、学習活動への基盤としての素地をもっているから、生涯教育の推進母体となるよう働きかけることが大切である。彼らの中には、必ずしも活動が活発でないものもあるから、集団の活性化のための援助、指導者研修、活動・交流のための場の提供、未加入グループ等の紹介など積極的な方策が必要である。

エ 個人学習への援助＝公民館の図書室の充実、テレビ、ラジオ、ビデオ等を活用した学習法や、届ける教育の方法の開発などが望まれる。また通信教育という方法もある。

個人学習から集合学習へ、集合学習から個人学習へと繰り返す継続学習も重要となる。

(2) 学習情報センターとしての公民館

ア 学習啓発のための推進員の設置活用＝都市的地域では、住民の潜在的な学習意識は高いがそれを顕在化しようとする働きかけに欠ける面がある。そこで地域の連帯意識を顕在化し、これを学習活動に結びつけるためには、公民館を軸とした推進員の働きに大きな期待が寄せられている。

イ データバンクの設置と相談体制をもった公民館＝都市的地域では、多量の学習情報はあがるが、その情報を総合的に収集提供する体制は整っておらず、そのシステムの整備が急がれる。情報収集に当たっては、学習機会にとどまらず、指導者、施設、団体、グループ・サークル、教材、資格など多方面にわたるものが望まれる。また、情報は整理、保管されるとともに、情報紙(誌)による提供や相談(直接・電話等)などによってできるだけ多くの住民に提供されることが必要。また、マイクロコンピューター、CATVなどのニューメディアの活用も今後十分検討する必要がある。

3. 公民館の人的体制

良質な内容をもつ学習機会の一層の増加と、学習情報の収集提供、相談事業などが予測されることから、公民館主事の絶対数の増加は不可決の問題であり、市町村においてはそのための努力が必要となる。

公民館主事は学級・講座等の企画運営や、団体、グループ・サークル等の助言など専門性を要する業務であり、資質が問われるところである。そこで、社会教育主事の資格取得、各種研修会への計画的参加など研修を進める一方、公民館主事の専門的な位置づけなど待遇面の改善も望まれる。

一方、推進員等民間の有志指導者の活躍に期待し、有志指導者の発掘と計画的養成、指導者バンクの設置など計画的、組織的な対応が望まれる。

新潟県生涯教育推進会議から、「生涯教育推進のための公民館の役割」なる報告書が出された。内容は「公民館の現状」「生涯教育推進のシステムと公民館」「公民館のあるべき姿」の3部で構成され、さらに4町村のモデル推進事例も加えられている。ここにその一部分を要約して紹介する。(文責 上村)

生涯教育推進のため

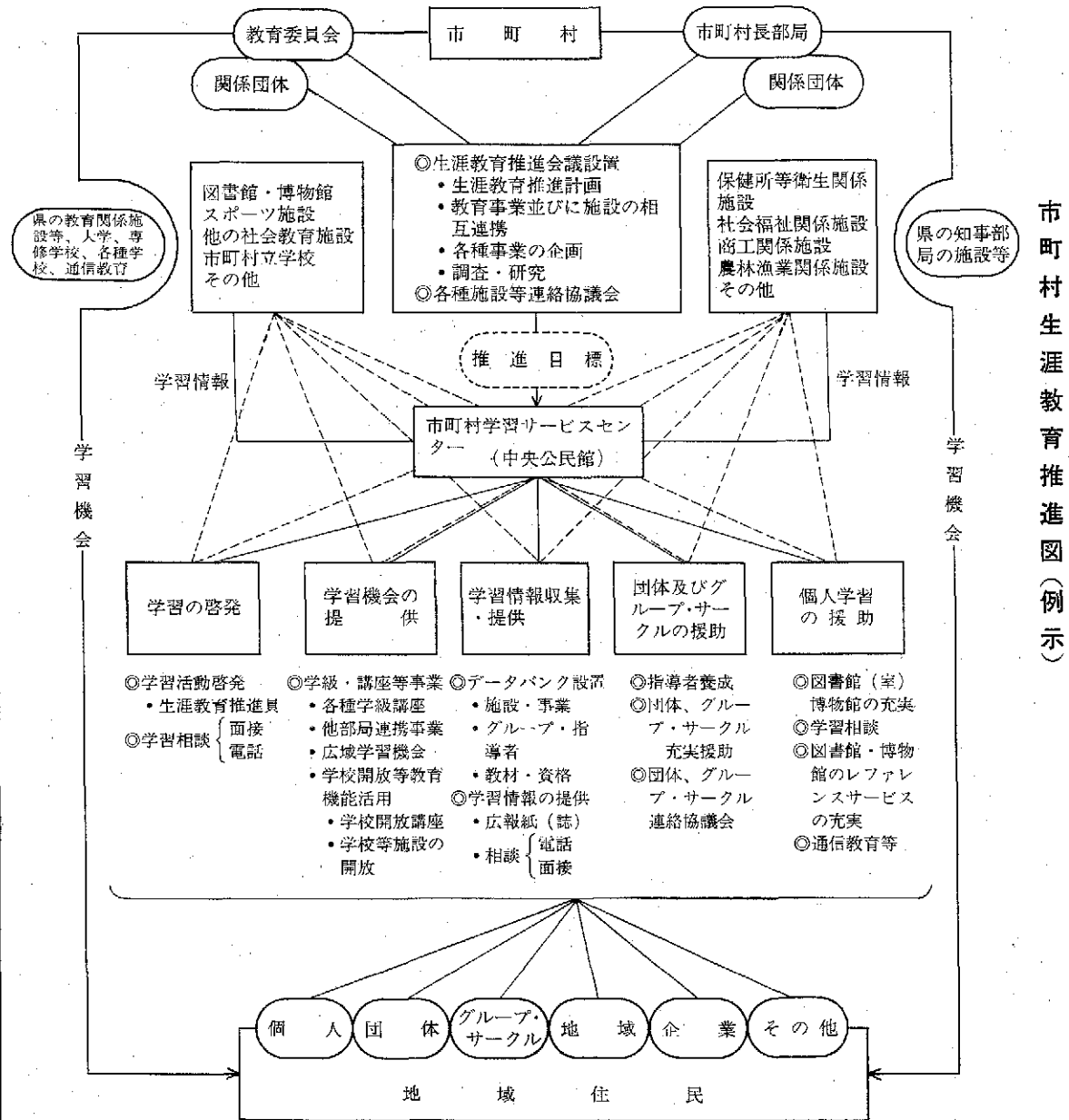
◇生涯教育推進のシステムと公民館

現代社会は、あらゆる分野で分化と総合が繰り返されている。教育的要素をもつ機関・施設においても専門的分化が見られ、それを総合する必要性が唱えられている。したがって、専門分化した教育機能を総合化していくことが生涯教育に課せられた課題といえよう。

このような基本的認識に立った県生涯教育推進会議では、生涯教育推進の第一次的役割を市町村にありとし、下図に示すように、その推進体制をシステム化することを望んでいる。

学習サービスセンターを中央公民館に位置づけている。よって公民館は、『①生涯にわたる学習が行いやすいように、学習情報や学習機会などの条件を全体として一貫性のあるものとして整備する視点、②生涯学習をより効果的に進めるため、社会の様々な教育的機能を持つ多くの部門相互の連携・協力という視点、③施策の実施に当っては、公的機関、民間機関、団体を含めた各種の教育機関が連携し、総合的な視点に基づくこと』の三つの視点を重視しながら生涯教育を推進することが必要としている。

また、市町村における生涯教育推進の中核的役割を果たす



市町村生涯教育推進図(例示)

五泉市公民館



男子 厨 房 に 入 る

実践記録シリーズ

(10)

働き盛り男子の講座

学習に工夫をこらす

五泉市は人も知る織物のまち。四つの条例公民館では、各種の学級や講座が活発。また、市展・文化祭などの行事も年々盛んになっている。だのに働き盛りの男子の足はなかなか公民館に向かない。いきおい、講座もあまり開設してこなかった。これではいかんと、男子成人のニーズを調べ、特色ある講座を工夫した。「男だけの料理講座」「親子民具作り教室」がそれ。これがまことに好評を博している。早速紹介してもらった。

男だけの料理講座

働き盛りの青年を対象として開設した、男だけの料理講座は、男性も厨房に入って家族とのコミュニケーションを深めるという目的で、今までに四回実施した。いずれも、なかなか好評で買われている。

受講者の年齢は二十歳から五十歳まで。魚の三枚おろしを覚えたいという希望者が多く、「鰻のタタキ」「締めごはん」など、季節の酒肴などに挑戦してもらった。

作ったあとは、講師の方々と一緒に、出来あがった作品に舌つづみをつけ、お互いに批評し、今後のメニューなどを話し合ったりして、楽しい中に適度の自主性もあり、成果が上がっている。

女性からも、仲間に入れてほしいとの話しもあったが、女性を入れるら、男はなんにもしないで食



親子民具作り教室

親子民具作り教室

今後は青年講座の一つとして定期的に計画して、和、洋、中華などいろいろな料理を挑戦してもらいたい。

親子民具作り教室の最初の作品は、わらわづ(深釜)だった。親子で楽しみながら、忘れかけている民具を作ることで、共通の話題を深める場を提供したいと計画したものである。だが、講師を確保するのが難しかったり、農家に材料のワラをワラ打ち機械で打ってもらったりしなければならず、大変な苦勞をした。とにかくひたすら頼みこみの一手だった。

募集は市の広報紙などを利用

し、小学校四年生以上の親子としたのだが、父親より母親と一緒の申込みの方が多く、大丈夫かなという心配もあった。当日は講師の好意で四人の指導者が来てくれたので十八組もの親子を指導することができた。お母は豚汁で楽しくおしゃべりしながらの食事。三時すぎにはここがどこか形を作ることができた。完成の喜びを味わうと、「お母さん、もったいなくて、雪のうちは履けないから飾っておきますわ。」「なにと言っておきなごら帰っていった。」「お母さん、飾ってしまふ、親だけが一応顧問になるといったふうに親子で作るといふ目的が少しはなれた面もあった。残念だった。今度は内容を充実させて、親子民具教室を継続して計画したいと思っている。

(五泉市公民館主事 小島隆記)

プロフィール

糸魚川市上早川公民館副主事
平内 芳美さん(31歳)

上早川公民館は非常勤の館長と、副主事平内副主事の三名の職員である。館長の私生活は当館へ兼任して来た一か月余しか経っていない。だからきわめて不安であるが、直感したことをもとに平内副主事のプロフィールを紹介する。

一、先づ朝や帰りのあいさつの感じがよい、地域住民や外来者に対する態度、電話や有線電話での応答は、明瞭で的確な判断をもつて受け答えをしている。

二、礼儀作法はよく、はきもの、胸元、背帯などの整頓整頓がよく、服装なども整っており、相手に好まれるエチケットをわきましている。

三、仕事は麻苧、経理が主であるが、その取り組む姿勢は公儀の鏡、正確徹底で地域民から信頼されている。

四、きわめて健康で、スポーツを好ぶこともあって、スポーツに関する事業、特にバレーボールの大会などを幹やかになしている。

五、これからの公民館主事や副主事に必要と思われることに自動車運転免許証をもつことがあつと思われるが、平内さんは早くから取得して、公民館の活動に活用している。

六、当公民館へ勤務することになったのは、約二年前であるが、それ以前は十三年間保育園に勤務していた。だから、幼児の指導経験が豊かであることや、幼児や地域民からの信頼が厚く、公民館職員としての適性が優れている。

七、家庭は、若妻として、一子(母親として、ご両親ご主人、おばあちゃん)の六人家族を明るく和やかに育てる素晴らしい主婦である。

誰でも気軽に集まり、学び結ぶのが公民館の役割である。その仕事にむかひの適性を持つ平内さんからは、ますます活発に信頼される副主事として活動してくださるよう期待してやまない。

(糸魚川市上早川公民館館長 伊藤 佐近)



事業紹介Ⅲ

県社会教育課関係事業

小・中学生科学セミナー

(新規事業)

青少年の科学する期及び会場
 心をよくむかため、第一回 7月13日(日)
 小・中学生を対象に 県立上越科学館
 少年科学教室も科学 第二回 8月9日(土)・11日(月)
 フェニックスを開催し、また、 牧中学校(頸城郡牧村)
 科学に関するシラフ活動の育成に 第三回 8月26日(土)・27日(水)
 努めるものです。 県立上越科学館
 このたび、次のとおり少年科学 対象 小学校5・6年生、中学生
 教室を開催します。 50人

社会同和教育指導者研修会

社会教育及び同和教育実践の在り方について研修を深め、指導者対象 教育委員会(社会教育、学
 の資質の向上と実践意欲を高める 校教育関係者、社会教育関係
 のものです。 団休役員、民生・福祉関係者
 期日 7月10日(土) 11日(金) 申込み県教育委員会社会教育課へ
 会場 新潟市カルチャーセンター 6月30日(日)まで

高校生リーダーシップ研修(夏季)

高校生のリーダーとしての資質の向上を図るため、野外活動の実践をとおし体験的な学習をすすめるものです。
 期日 7月22日(火)・24日(木) 経費 宿泊費を含め四千五百円
 会場 県立青少年研修センター 申込み 問い合わせ
 対象 高校生 180人 県立青少年研修センターへ
 主要内容とコース ユース別で、野外活動を中心とする。コースは次のとおり

主要内容 植物Ⅰ、植物Ⅱ、昆虫、地学、天文の5コースに分かれ体験学習をすすめる。
 経費 宿泊費、教材費など三千五百円程度
 申込み 上越市教育委員会社会教育課へ(6月28日(土)まで)はがきで申し込み
 〒991 上越市木田 446
 問い合わせ 上越教育事務所社会教育課
 (電話)三五二五(三三二)

県青年大会

上越市高陽会館
 中越地区 7月4日(金)
 長岡市中央公民館
 下越地区 7月2日(水)
 西川町公民館
 7月8日(火) 新潟市市民館
 佐渡地区 7月9日(水)
 佐和田町佐渡中央会館

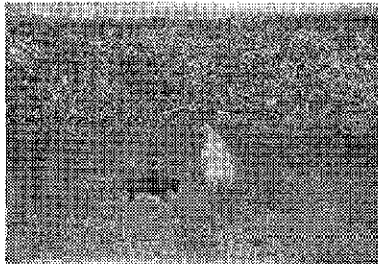
家庭教育指導者 研究協議会

家庭の教育力を高めるため、家庭教育学校の運営などについて研究協議するものです。
 期日及び会場 上越地区 7月16日(水)

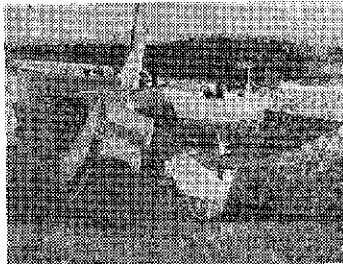
展覧会案内

洋画三人展へどうぞ

小野末・田中道久・竹谷富士雄
 ー 県美術博物館(県民会館3F) ー
 六月六日(金)ー七月六日(日)



▲小野末「闘牛(潮騒B)」(一九七七)
 竹谷富士雄「船どまり」(一九六八)▲
 ▲田中道久「カラエリス」(一九七五)



敬しい自然と生命の尊さを重んじた小野末(新潟市出身)、ヨーロッパの遊歩する中田中道久と陰に生輝きを見出した竹谷富士雄(五泉市出身)、日展生活の一隅から人の心の美しさを透視してきた田中道久(加茂市出身)。
 最近発表された三人の洋画家の画業を鑑賞して紹介します。会期中毎土曜午後二時から鑑賞会を行い、親交あつた方などに解説していただきます。(大人五〇〇円) 月曜日休館

おしらせ

四月号まで連載してきた「公民館番頭日記」(徳岡助夫氏記)にかわり、今月号から「回覧目録」を新たに連載します。かつて公民館のエキスパートだった人で、今は他の部署等で活躍している人から、いわば外側から公民館を眺めて気づくこともやまのことが指摘していただきます。執筆には成島紀代氏(現東頸城村議会事務局長)・田村澤夫氏(現北見市博物館長)・天沼千子氏(現新潟市教委社会教育主事)を予定し輪番で筆を執ってもらいます。

広報紙ご惠贈お礼

月報編集部へ毎月広報紙をご惠贈いただき感謝しております。厳しい状況の中で公民館報を発刊するのは容易ではないと思えます。そんな中で、充実した内容・美しいレイアウト等々敬服の限りです。ゆたかりとしたスペースで内容を紹介したいのですが思うようにできません。せめて館報のみでも、今年四月号以降のご惠贈公民館報名を紹介いたします。

「新生」入広瀬村、「館報ほり」のち「堀之内町」、「しおさわ」堀之内、「館報豊田」豊田、「広報やま」と大和町、「公民館情報」十日町市、「小須戸公民館報」小須戸町、「公民館報やまびこ」村松町、「公民館報さんぼく」山北町、「とよさか公民館だより」(創刊号)豊栄市、以上各市町村公民館の刊行によるものです。このほかにも、市町村刊行の広報紙も多数いただいております。厚くお礼申し上げます。

あとがき

本紙は今月号で四百号を迎えました。昭和28年2月から33年4月、ただ続けるだけでも大変なことです。先人の苦労努力に敬服いたします。

これを機会に紙面の刷新をはかるべく、編集部ではしましきりに短装を練っております。ご意見をお寄せください。(下村 昭)